

ミュージック・イン・スタイル 岩崎 淑シリーズ Vol.38

～ 木管五重奏とピアノのタベ～

SHUKU IWASAKI SERIES Vol. 38

Music in Style

岩崎 淑 (ピアノ)
Shuku Iwasaki, piano

©ケンゴ マエダ



上野由恵 (フルート)
Yoshie Ueno, flute



蠣崎耕三 (オーボエ)
Kozo Kakizaki, oboe



田中香織 (クラリネット)
Kaori Tanaka, clarinet



岡崎耕治 (ファゴット)
Koji Okazaki, bassoon



吉永雅人 (ホルン)
Masato Yoshinaga, horn

2015 **12.13** 日 14:00開演 (13:15開場) **総社市民会館** (総社市総合文化センター)
岡山県総社市中央三丁目1-102 TEL0866-92-3491

プログラム

モーツァルト: ピアノと管楽のための五重奏曲 変ホ長調 KV452
W.A.Mozart Quintett in Es für Klavier, Oboe, Klarinette, Horn und Fagott KV452

サン=サーンス: タランテラ op.6
C.Saint-Saëns Tarantella op.6 for Flute, Clarinet and Piano

野田暉行: コンソナンス〜木管五重奏とピアノのための 1993
T.Noda Consonance for wind quintet and piano 1993

プーランク: 六重奏曲
F.Poulenc Sextuor pour piano, flute, haubois, clarinette, bassoon et cor

*都合により曲目・曲順が変更される場合がございます。何卒ご了承下さい。

全席自由: 前売 一般 ¥2,500 高校生以下 ¥1,000

※チケット発売日 9月24日(木)

※当日は500円UP ※未就学児入場不可

◆プレイガイド◆

総社	総社市総合文化センター	0866-92-3491
	天満屋ハピータウンリブ総社店	0866-92-5555
	宮脇書店総社店	0866-92-9229
岡山	岡山シンフォニーホールチケットセンター	086-234-2010
倉敷	アルスクらしきチケットセンター	086-434-0010
	インディスク	086-422-1457

主催: 公益財団法人総社市文化振興財団

共催: 総社市・総社市教育委員会

注 意 公演中止の場合を除き、チケットは払い戻しいたしません。
駐車場に限りがあります。なるべく公共交通機関でお越しください。

お問合わせ **公益財団法人総社市文化振興財団** (総社市総合文化センター内) **0866-92-3491**
〒719-1131 岡山県総社市中央三丁目1-102

【福岡】12月6日(日) 13:30 FFGホール(旧福岡銀行ホール) お問合わせ: 092-566-7381 / 092-521-9274

【岡山】12月9日(水) 19:00 ルネスホール お問合わせ: 090-3379-9810

【東京】12月11日(金) 19:00 東京文化会館 小ホール お問合わせ: 03-3943-6677



岩崎 淑 [ピアノ] *Shuku Iwasaki, piano*

倉敷市出身。桐朋学園大学、ハートフォード大学、ジュリアード音楽院、キジアーナ音楽院で、井口秋子、井口基成、J.ラタイナ、A.ベネデッティ・ミケランジェリ、S.ロレンツィ、I.フロインドリッヒの各氏に師事。1967年ミュンヘン国際音楽コンクール二重奏部門第3位。68年ブダペスト、70年チャイコフスキー国際音楽コンクールで最優秀伴奏者賞受賞。以来、J.シュタルケル、P.トルトゥリエ、P.-L.グラーフ、I.パールマン、A.ナヴァラ、I.ギトリス、U.ウーギ、M.マイスキー、M.ジャンドラなど著名音楽家と共演、録音多数。76年より「岩崎淑ミュージック・イン・スタイル」主宰。89年芸術祭賞を受賞。79年より18年間「沖縄ムーンビーチ・ミュージック・キャンプ&フェスティバル」、97年より「沖縄国際音楽祭」を弟の岩崎洸と企画開催。20年間に渡りシエナのキジアーナ音楽院でR.ブレンゴラ教授と室内楽クラスを担当。イタリアのグッピオ、ローヴェレ、フランスのクールシュベールなどでマスタークラスを担当。

上野 由恵 [フルート] *Yoshie Ueno, flute*



東京藝術大学音楽学部附属音楽高校を経て、同大学をアカンサス音楽賞を得て首席卒業。同大学大学院修士課程修了。第76回日本音楽コンクール第1位、岩谷賞(聴衆賞)、加藤賞、吉田賞、E・ナカミチ賞。第2回東京音楽コンクール第1位。第15回日本木管コンクール第1位、コスモス賞(聴衆賞)、兵庫県知事賞、朝日新聞社賞。第1回北京二コレ国際フルートコンクールセミファイナリスト。これまでに、読売日響、都響、新日本フィル、東響、東京フィル、関西フィル、京響、セントラル愛知響、芸大フィル、瀬戸フィル、チェコ・フィル室内管、チェコ・フィル六重奏団等と共演。各地でのソロリサイタルのほか、皇居内桃華楽堂での御前演奏、首相官邸での演奏を行う。これまでにオクタヴィアレコードより3枚のCDをリリース。『レコード芸術』準特選盤、朝日新聞特選盤等に選ばれる。現在、ムラマツレッスンセンター、洗足学園音楽大学講師。

嶋崎 耕三 [オーボエ] *Kozo Kakizaki, oboe*



1983年京都市立芸術大学音楽学部を首席で卒業。在学中、第51回日本音楽コンクール入選。1984年DAADドイツ政府給費留学生としてミュンヘン音楽大学大学院へ留学。留学中、ベルリン放送交響楽団、ミュンヘン・バッハ管弦楽団、ヨーロッパ室内管弦楽団など数多くのオーケストラに客演。1987年帰国。第4回日本管打楽器コンクールオーボエ部門第1位入賞。札幌交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団を経て、現在読売日本交響楽団首席オーボエ奏者を務める。紀尾井シムフォニエッタ東京のメンバーとして、また独奏者、室内楽奏者としても活躍するかわら桐朋学園大学准教授として後進の指導にも当たっている。岩崎勇、ギュンター・パッシンの各氏に師事。

田中 香織 [クラリネット] *Kaori Tanaka, clarinet*



福岡県出身。国立音楽大学を卒業後、パーゼル市立音楽院音楽大学に留学、国家演奏家資格、及びソリスト国家資格を首席で取得。第78回日本音楽コンクール第1位、第2回ジャック・ランシ国際クラリネットコンクール第2位、パーゼルオーケストラ連盟BOGコンテスト最優秀賞、第3回トリノ国際音楽コンクール第2位、北九州市民文化奨励賞を受賞。ソリストとしてパリエル響、パーゼル室内管、オーデンセ響弦楽四重奏団、東京交響楽団、東京フィル、九州交響楽団等と共演。パーゼル音楽大学での指導や、スウェーデン室内管、カメラータ・ベルンでのゲスト首席奏者としての活動など、10年に渡るヨーロッパでの音楽活動を経て2014年秋より拠点を日本へ移し、現在ソロ、室内楽などの分野で活動中。国立音楽大学講師、元パーゼル音楽院音楽大学講師。

岡崎 耕治 [ファゴット] *Koji Okazaki, bassoon*



広島市出身。武蔵野音楽大学を経てDAADドイツ政府交換給費留学生として、デトモルト北西ドイツ音楽アカデミーに留学、1978年演奏家資格試験を最優秀で修了。1978年から2009年までNHK交響楽団首席ファゴット奏者を務める。現在は、武蔵野音楽大学教授、東京芸術大学客員教授、エリザベト音楽大学講師として後進の指導に当たると共に、ソリスト、室内楽で活躍。ドイツ、ハンガリー、ブルガリアに於いても度々のソロ、協奏曲、室内楽演奏会、マスタークラス等を開催。1973年第42回NHK毎日音楽コンクール第2位入賞。ナクソス、フンガルトン、マイスターミュージック、キングレコード等から多数の協奏曲、ソロ、室内楽のCDをリリース。

吉永 雅人 [ホルン] *Masato Yoshinaga, horn*



高校在学中の1985年、第1回日本管打楽器フェスティバル、ホルン部門、金賞及び特別賞受賞。同年、参加者最年少の17歳で、第2回日本管打楽器コンクール、ホルン部門第1位入賞。東京音楽大学付属高等学校を経て東京音楽大学卒業。94年より1年間、ドイツ、ミュンヘン市立リヒャルト・シュトラウス音楽院に留学。2001年には東京カザルスホールにてソロリサイタルを開催し好評を博した。ソリストとして小澤征爾、井上道義、小泉和裕、G・ボッセをはじめとする名匠らと協奏曲を共演する。東京ホルンカルテット、オイロス・アンサンブル、なぎさプラスソリスト等々のメンバーとしてCDをリリースするなど多方面で活躍する。現在、新日本フィルハーモニー交響楽団首席ホルン奏者、東京音楽大学、桐朋学園大学、桐朋学園芸術短期大学、各講師。

私のミュージック・イン・スタイル シリーズコンサートは、ピアノを含む弦、管、声のさまざまな室内楽のプログラムと委嘱作品を1976年以来発表して参りました。第38回は、21年ぶりに管楽器に焦点をあてました。モーツァルト、プーランクの有名な作品とサン＝サーンス、そして1993年に委嘱した野田暉行氏の作品を再演いたします。昨年、音楽之友社の現代日本の音楽シリーズとして、三瀬和朗氏、別宮貞雄氏に続きミュージック・イン・スタイルの三人目として、野田氏のこの作品が出版されました。初演の共演者 長年N響で活躍されてきた岡崎耕治さん、現・読響首席の嶋崎耕三さんもこの作品の素晴らしさから今回の再演を喜んで下さっています。管楽器の室内楽曲としてより一層理解され、愛されることを祈っています。

上野由恵さん、田中香織さん、吉永雅人さんは初めての共演ですが、優れた演奏活動をされており、大変楽しみです。心に染みわたる管楽器の音色を聴いて頂けたら、こんなに嬉しいことはありません。

岩崎 淑

現在、演奏活動のほか、イタリア・カントゥ国際音楽コンクール審査員、第1回～第3回高松国際ピアノコンクール審査員長。2008年まで桐朋学園大学院大学教授ほか、これまでに尚美学園大学大学院客員教授、武庫川女子大学、くらしき作陽大学客員教授を務めた。倉敷市文化振興財団アドバイザー。室内楽グループ「カローラ」主宰。国際音楽祭ヤング・ブラハ日本実行委員会会長。著書に『アンサンブルのよろこび』『ピアニストの毎日の基礎練習帳』(以上春秋社)、『音楽さえあれば』(岩崎洸共著/吉備人出版)。

2005年福武文化賞、99年ノルウェー王国功労勲章叙勲。2014年1月第24回新日鉄住金音楽賞特別賞、同年2月第26回ミュージック・ベンクラブ音楽賞クラシック部門特別賞受賞。

2015年6月 Beyond the Festival、同年7月 35é Festival Internacional de Música Pau Casalssに出演。国内外問わず、多方面で活躍の場を広げている。

Concert Reviews ～2013年11月 ミュージック・イン・スタイルVol.37より～

ゲストはイタリアを代表するバヤン&バンドネオン奏者ジュゼッペ・シアーノ。バヤンとはロシア式ボタン・アコーディオンで、イタリアで西洋音階の楽器として発達したらしい。アルベニスの小品3曲とセミョノフ、モーリックの作品で聴衆を魅了。左ボタンも和声付に留まることなく旋律まで自在に担当する。その技と心は第一級だ。後半はこのシリーズの看板である委嘱作品の初演。今回は菅野由弘がバヤンとチェロのために書いた《星座》。構成感の明瞭な、耳に馴染む作品で、両楽器の表現の特質がみごとに生かされている。岩崎洸のチェロとのバランスもよかった。その後バヤン・ソロのシェibel作品を経て、岩崎姉弟によるカサド《親愛なる言葉》。最後にバヤンをバンドネオンに持ち替えたシアーノがピアノとの共演でピアノを感情表現ゆたかに繰り広げた。大ヴェテランの岩崎淑がこうして現在進行形でレパートリーを広げていることに目を眩した。

(萩谷由喜子「音楽の友」2014年1月号)

1976年に始まった室内楽シリーズ「ミュージック・イン・スタイル」の第37回は、主宰者の岩崎淑(ピアノ)、岩崎洸(チェロ)、ジュゼッペ・シアーノ(バヤン&バンドネオン)というメンバーで開催された。シアーノは、バヤン(ロシア独特のクロマティック・アコーディオン)とバンドネオンの名手として、出身国のイタリアはもちろん、国際的にも高い評価を得ているという。

当夜は、はじめにシアーノのバヤン独奏で、アルベニス《コルドバ》《タンゴ》《アストゥリアス》と、セミョノフ《ブラムジアーナ》が演奏された。指先の技巧が目目されるだけでなく、強弱のコントロール、曲想にそった風情の出し方、ニュアンスの表出など、聴き手の感覚に強烈に訴えるソロであり、バヤンから最大限の表現力が引き出されている。バヤンとピアノのデュオによる、モーリック《6つの性格的小品》と、ヴァルボラ《マリリナ・ソナタ》でも、シアーノの多彩な表現が光る。ピアノの岩崎は彼の音楽性に共感し、サポートに徹した。

後半に入って、菅野由弘《星座》(委嘱作品)は、ピアノ、バヤン、チェロという珍しい組み合わせでありながら、アンサンブルとしてよくまとまり、さらに、その表現の可能性を高度に追求した演奏。シェibel《イントロダクションとアレグロ》(バヤン&チェロ)では、音色の組み合わせが新鮮かつ魅力的であり、かけ合いも楽しい。カサド《親愛なる言葉》(チェロ&ピアノ)では、岩崎洸の円熟した語り口が目目された。最後に、シアーノが楽器をバンドネオンに持ち替え、ピアノとのデュオで、ピアソラの作品から《ヴィオレンタンゴ》など5曲。哀愁に満ちた表情、むせび泣くような表現など、シアーノの情懐豊かな節回しが、強く印象に残った。(原美美「ムジカノーヴァ」2014年2月号)

恒例ミュージック・イン・スタイルも37回目。今回は岩崎が弟の洸と共にイタリアのバヤン&バンドネオン奏者ジュゼッペ・シアーノと共演。

前半はアコーディオンに似るが鍵盤の代わりに64のボタンで操作するロシアの楽器バヤンを使用。まずシアーノのソロでアルベニス。『コルドバ』、タンゴ、『アストゥリアス』の3曲が演奏されると次はセミョノフ「ブラムジアーナ」。いずれも重厚で幅広い表現力を持つバヤンの特性を存分に活かした雄弁な演奏だった。次は岩崎のピアノと共にモーリック／六つの性格的小品とヴァルボラ／マリリナ・ソナタを。

後半はまずシアーノと岩崎姉弟の3人により菅野由弘への委嘱作品「星座」が作曲家臨席の下、演奏された。シェibelもイントロダクションとアレグロ、カサドの「親愛なる言葉」を挟んで、以降はバンドネオンにチェンジ。最後の岩崎とのピアソラ5曲もノリにノッた岩崎のピアノが素敵に楽しかった。(浅岡弘和「音楽現代」2014年1月号)

日本随一のアンサンブル・ピアニストとし知られ、演奏や教育、審査員やプロデュースなど、国内外で幅広い活躍が続いている岩崎淑が1976年から始めた『ミュージック・イン・スタイル・シリーズ』コンサートの第37回。共演は、初めての共演楽器バヤン／バンドネオン／アコーディオンの世界的名手ジュゼッペ・シアーノと現代有数のチェリスト岩崎洸。

冒頭の、アルベニス《コルドバ》《タンゴ》《アストゥリアス》や、セミョノフの《ブラムジアーナ》は、情感豊かなノリの良いバヤンのソロ演奏に魅了された。次のモーリックの《6つの性格的小品》とヴァルボラの《マリリナ・ソナタ》では、バヤンとピアノが絶妙な掛け合いを聴かせた。

後半は、菅野由弘への委嘱作品《「星座」ピアノ、バヤンとチェロのための(2013)》を初演。星夜に煌めく星々の光の動きを想わせて印象的であった。以降、カサドの《親愛なる言葉》はチェロとピアノ、シェibelの《イントロダクションとアレグロ》はアコーディオンとチェロ、そしてピアソラの《ジャンヌとポール》(アヴエ・マリヤ)《南へ帰ろう》(忘却)《ヴィオレンタンゴ》をバンドネオンとピアノで演奏。岩崎淑の堅実で味わい深いピアノは、いつ聴いても安心感があり、新しい発見がある。この日もベテランならではの感興豊かな表現とアンサンブルの妙味を楽しませてくれた。

(横堀朱美 月刊「ショパン」2014年1月号)